

天理教 江南支部だより

発行先 江南支部
発行日 立教189年2月1日
発行責任者 九里正昭
発行住所 甲賀町神1750番地の1
2月号 N0307

教祖140年祭執行される 寒空の中約13万人が帰参



教祖を慕って帰り集った人でベンチも埋め尽くされた

来生も喜びいつぱいのスタートを

二十代前半の若い女性が、末期がんで入院していました。

あるとき、女性の母親が「何かやりたいことがあれば言つてごらん」と尋ねました。先が長くない娘を案じ、悔いが残らないようにしてあげたいとの親心からでした。母親の問いかけに、女性は「一日でいいから、家に帰りたいて」と答えました。担当医の許可も下りて、女性は自宅へ帰れることになりました。

久しぶりに帰ったわが家では、家族がいつもと変わらない日常生活を送っていました。母親は朝早くから朝食とお弁当を作り、父親と弟たちは慌ただしく出かけていく。昼間は、母親が掃除に洗濯にと家中をせわしなく動き回り、夜になると家族全員がそろって、家のなかにはまた、にぎやかになる。

外泊期間を終えて再び病院に戻った女性は、周囲の人にこんなことを話したそうです。

「私はがんで良かった。もし、すぐに

死んでしまふ病気だったら、自分の思うように余命を過ごすことも、家族との時間を持つこともできなかつたろう

うから、以前は、家族がいることは当たり前前だと思つていたけれど、がんになつて、当たり前のことなんて一つもないことに気がついた。そして何より、私の家族は、とても温かい、ありがたい家族だったんだと、あらためて感じた」

どんな人も、いずれ出直します。長生きして、病まらずに出直すことができれば本望ですが、この女性のように、思わぬ病気や事故に見舞われて命を落とす人もたくさんおられます。

しかしながら、私は、どんな出直しにも必ず喜べると思つていきます。さらに、喜びを探すことができ力、見つけられる力があるかどうか、その後の運命を大きく左右するのだと思ひます。

親神様は、可愛い子供である人間にづらい思いをさせたいと思つておられません。けれども、何か「メッセージ」を伝えたくて、泣く泣く身上や事情

をお見せくださいます。そのことに思

いを致せば、「親神様の思召に沿つた通り方ができていたか」「前生で積んできたほこりを、いま見せていただいているのではないか」などと来し方を振り返り、さんげすることが出来ます。そこから、生かされていることへの感謝や、どんなことも喜べる心が生まれるのです。

人生の終焉は、来生の幕開けにつながつていきます。憎しみや恨みつらみではなく、喜びの心で幕を下ろすことができたなら、来生もきつと、喜びいつぱいのスタートを切らせていただくことができると思ひます。



『みちのとも』より「すいすい話」
教祖のぬくもりに守られて

二宮幸代 三机分教会長夫人

私は、母が信仰初代の信者家庭に育ちました。実家の母は、私たちが子供のころ、身上のときには必ず「お御供さん」を頂かせてくれました。頂くことも、気持ちが悪く落ち着き、安心した

のを覚えています。

私が小学生のとき、元気だった父が、ひと晩のうちに急逝するという節をお見せいただきました。いんねんを自覚した母は、私たち子供を「いつも教祖に守っていただきたい」という思いで育ててくれました。そのことに心から感謝しています。

高校時代、友人関係に悩んでいたとき、母に久しぶりにおぢばに連れて帰ってもらい、教祖殿で、なんともいえない温かいぬくもりを感じました。そのことがきっかけで天理大学に進み、主人とのご縁を頂きました。

年祭活動三年千日の1年目、前会長である父の介護が始まり、2年目には、父の出直しという節をお見せいただきました。

教会長として、生涯ひながたの道を中心にたたえてコツコツと歩んだ父は、「理屈に勝って理に負ける。理屈に負けて理に守られる。親の理に沿うことが徳を頂く一番の近道や」、また「陰の伏せ込み、陰徳を積む、天への貯金が大切」と、折に触れ論してくれまし

た。

父の出直しの前後の時期、私は人間思案から勇むことができず、年祭に向けて大教会からお打ち出しいただいて、喜びを数えて毎日スマートフォンで報告する「喜びテンポイント」活動も送信できなくなりました。そんなとき、大教会の奥様が「ちょうど良いようにお願いさせていただけますね」とLINEを下さいました。その文字を見たときに、「教祖はいつも、ちょうど良いご守護を下さっているのだから、何も心配はいらないんだ」と、あ

のときと同じ、温かいぬくもりを感じました
信者家庭に育った私にとって、教会での生活は、喜びも多い反面、心を倒すこともありました。しかし、その時々にはいつも教祖の温かいぬくもりを頂戴し、お連れ通りいただきました。
年祭活動仕上げの年、たくさんの方々と共にコツコツと喜びの種まきをさせていただき、教祖にご安心いただきました
と思います。



わかぎの集い

少年会滋賀教区団

日時：3月8日（日）午前9時集合 9時30分開講

会場：教務支庁 滋賀県立アイスアリーナ

対象：小学6年生～中学3年生

内容：鳴物練習（笛・小鼓・琴・三味線・胡弓） スケート

持ち物：保険証（マイナンバーカード）手袋、帽子、あれば笛・小鼓

申込み：2月10日までに江南支部少年会育成委員長 橋本研一（甲龍分教会）へお申し込み下さい。

2月支部にをいがけデー

2月28日午前9時 拠点教会 宮野里分教会 信楽町宮町524番地

滋賀教区青年会 ひのきしん隊 入隊のご案内

このたび滋賀教区青年会は、一泊二日で「滋賀教区青年会ひのきしん隊」として伏せ込みひのきしんに入隊します。

日 時：2月14日（土）～15日（日）

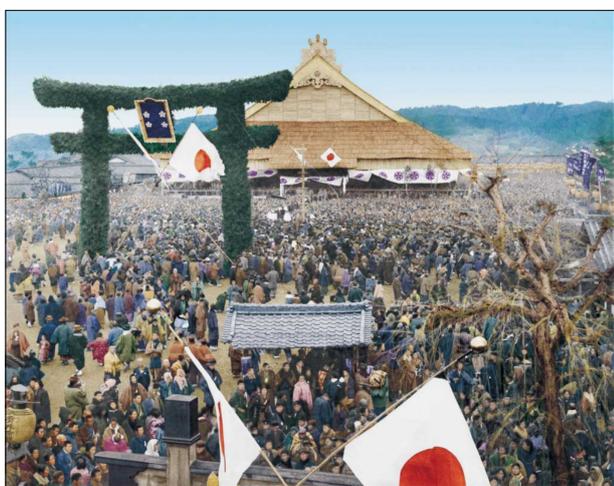
集 合：14日 午前8時20分 百母屋

解 散：15日 午後4時30分の予定

申込み：右記QRコードからお申し込みください。

申込締切 2月9日

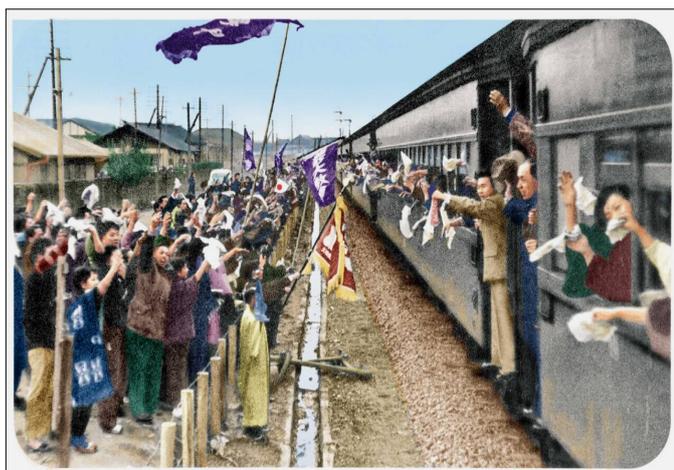
道の歩み



教祖20年祭



教祖40年祭



教祖70年祭



教祖130年祭

さあ、次の塚をめざし新しい歩みを進めよう！